段落	文	頁	行	原文	神山訳	寺沢訳
		157	1 2	A. Die Zahl.	A.〈数〉	A　数
448	1		3	Die Quantität ist Quantum, oder hat eine Grenze.	量は、数量であり、すなわち限界をもっている。	量は定量である、換言すれば、量は限界をもっている。
	2		4 5 6 7 8 9 10	Insofern die continuirliche und discrete Größe als Arten der Größe angesehen werden, so ist das Quantum sowohl die eine als die andere als begrenzt; oder jede von ihnen hat eine Grenze; an der continuirlichen ist die Grenze als Grenze der Continuität; an der discreten als Negation an der Vielheit, die für sich ununterschiedene Menge überhaupt ist.	連続した大きさと分離した大きさが、大きさの〈種〉とみなされるかぎり、数量は、限界づけられたものとして、一方でもあれば他方でもある。いいかえれば、それらのそれぞれは、限界をもっている。限界は、連続した大きさのもとでは、連続の限界としてあり、分離した大きさのもとでは、多態に即した否定である。多態は、それだけで独立すると、区別されない多数である。	連続的な大きさと離散的な大きさとが大きさの種類とみなされる限りでは、定量は限界づけられたものとしての連続的な大きさでもあれば離散的な大きさでもある。換言すれば、両者のおのおのは限界をもっている。限界は、連続的な大きさのもとでは連続性の限界としてあり、離散的な大きさのもとでは数多性のもとでの否定としてある、そして数多性はそれだけでは区別のない集合一般である。
	3		10 11	Aber der Unterschied dieser Arten hat hier keine Bedeutung mehr.	しかし、こうした〈種〉の区別は、この場の議論ではもはや意味をもたない。	だが〔大きさの〕これらの種類の区別はここではもはやなんの意味ももっていない。
449	1		12 13 14 15	Zunächst als negative Einheit des Unterschiedes, der Continuität und der Discretion, ist die Quantität ein Insichseyn, in dem der Unterschied aufgehoben ist, oder das sich von ihm unterscheidet.	第一に、量は、区別されたものの、すなわち連続と分離の否定的な統一としては、〈みずからの内にあること〉である。この〈みずからの内にあること〉においては、その区別が廃棄されている、いいかえれば、この〈みずからの内にあること〉は、その区別とは区別されている。	さしあたり量は、連続性と離散性との区別の否定的統一として、そのなかでは区別が揚棄されている自己内存在・換言すれば区別から区別されている自己内存在である。
	2		15 16 17	Die Quantität ist an sich das aufgehobene Fürsichseyn; sie ist also schon an und für sich selbst gegen ihre Grenze gleichgültig.	量は、それ自体では、廃棄された〈それだけで独立した存在〉である。したがって、量は、すでにそれ自体でもそれだけで独立してもそれ自身、みずからの限界に対して無関心である。	量は本来的には揚棄された向自存在である。したがって量はその限界に対してすでに絶対的に無関心的である。
450	1		18 19 20	Aber so wenig als das Etwas eine von seinem Insichseyn unterschiedene Grenze hat, so wenig ist diß hier der Fall.	しかし、〈なにものか〉がみずからの〈みずからの内にあること〉とは区別された限界をもつことがないのと同じように、この場の議論でも、《量は、すでにそれ自体でもそれだけで独立してもそれ自身、みずからの限界に対して無関心である》ことは、事実そのとおりではない。	けれども、或るものがそれの自己内存在から区別された限界をもたないように、ここ〔定量の場合〕でもそのこと〔自己内存在から区別された限界をもたないこと〕がなりたつ。
	2		20 21 22	Die Grenze ist das, wodurch sich Etwas von Anderem abscheidet, und sich auf sich selbst bezieht; durch seine Grenze ist also Etwas in sich und nicht in	限界というものは、〈なにものか〉が〈他のもの〉分離してみずからをみずから自身に関係づけるゆえんであり、したがって、〈なにものか〉	限界とは、或るものがそれによって自己を他者から分離し・しかも自己自身へと関係するゆえんのものである。したがって或る

			23	Andern; seine Grenze ist also sein Insichseyn.	は、みずからの限界によって、みずからの内にあって、〈他のもの〉の内にはないのである。したがって、〈なにものか〉の限界は、〈なにものか〉の〈みずからの内にあること〉である。	ものはそれの限界によって自己のうちにあり、他者のうちにはない。したがって、或るものの限界は或るものの自己内存在である。
	3		23 24 25 26 27	Der Quantität ist überhaupt unmittelbar die Grenze, oder ein Quantum zu seyn, nicht gleichgültig; denn sie ent- hält das Eins, das absolute Bestimmtseyn, in sich selbst, als ihr eigenes Moment.	一般に量にとっては、直接的に、限界、すなわち数量であることは、無関心なことではない。というのも、量は、絶対的な〈規定された存在〉である〈一つ〉をみずから自身のうちに、みずからの独自のモメントとして含むからである。	量にとっては一般に直接的には、限界は、換言すれば定量であるということは無関心的ではない。というわけは、量は絶対的な規定された存在すなわち一をそれの固有の契機として自己自身のうちに含んでいるからである。
451	1	158	1 2 3	Diß Eins ist das Princip des Quantums; es ist aber nicht das abstracte Eins, sondern das Eins *als* *der Quantität*.	この〈一つ〉は、数量の原理である。しかし、この〈一つ〉は、抽象的な〈一つ〉ではなくて、【量の】〈一つ〉【としての】〈一つ〉である。	この一は定量の原理である。だがそれは抽象的な一ではなくて、量の一としての一である。
	2		3 4 5 6 7	Dadurch ist es *erstlich* continuir- lich; es ist *Einheit; zweytens* ist es discret, da- durch ist es in sich eine Vielheit der Eins, welche aber die Gleichheit miteinander, jene Continuität, dieselbe Einheit haben.	このことによって、【第一に】、この〈一つ〉は、連続的である。この〈一つ〉は、【統一（単位）】である。【第二に】、この〈一つ〉は、みずからの内において、もろもろの〈一つ〉の多態である。だが、これらの〈一つ〉は、たがいの同等態を持ち、先ほどの連続態をもつから、同じ単位をもっている。	このことによってこの一は、第一に、連続的である。それは単位である。第二に、それは離散的であり、このことによってそれは自己のうちでもろもろの一の数多性である。だがこれらのもろもろの一は、相互の相等性を・かの連続性を・同一の単位をもつのである。
	3		7 8 9 10 11 12 13	*Drittens* ist diß Eins Negation der Continuität und der Discretion; und indem sie seine Mo- mente ausmachen, so ist es somit die Negation seiner selbst; indem es aber eben so unmittelbar *ist*, so ist die- se Negation seiner zugleich ein Ausschliessen seines Nicht- seyns aus sich, eine Bestimmung seiner gegen andere Quanta.	【第三に】、この〈一つ〉は、連続と分離の否定である。そして、この連続と分離はが〈一つ〉のモメントをなしていることにより、この〈一つ〉は、みずから自身の否定である。しかし、この〈一つ〉が同時に直接的に【存在する】ことにより、この〈一つ〉のそうした否定は、同時に、この〈一つ〉の〈あらざること（非存在）〉をみずから排除することであり、他のもろもろの数量に対するみずからの規定なのである。	第三に、この一は連続性と離散性との否定である。そしてこの両者がこの一の契機をなしているのであるから、この一はそれ自身の否定である。だがこの一はまたまさに直接的であるから、それのこの否定は同時にそれの非存在を自己から排除する運動であり、他のもろもろの定量に対するこの一の規定である。
	4		13 14	Das Eins ist insofern sich auf sich beziehende, umschliessende, und anderes ausschliessende Grenze.	そのかぎり、この〈一つ〉は、みずからをみずからに関係づける限界であり、包含する限界であり、他のものを排除する限界である。	一はその限り自己へと関係し・囲いこみ・他者を排除する限界である。
452	1		15 16 17	Es ist gesagt worden, daß die Momente der Con- tinuität und der Discretion in dem begrenzenden Eins enthalten sind.	《連続と分離のモメントは、限界づける〈一つ〉に含まれている》と言われている。	連続性と離散性という両契機が限界づける一のなかに含まれている、ということがいわれた。
	2		17 18	Insofern in diesem Begrenzen das *Eins* das *Bestimmende*, oder das Ganze überhaupt	このように限界づけるさい、〈【一つ】〉は、分離の形式のかたちで、【規定するもの】であ	この限界づける運動において一が規定するものであるという、換言すれば全体が一

			19 20 21 22	in der Form der Discretion ist, so ist die Continuität als die *Einheit* der vielen Eins vorhanden; sie ist das *Eins*, insofern es das *Princip* ist, oder die Vielen alle Eins sind.	り、別の言い方では一般に全体である。したがって、そうであるかぎり、連続は、多くの〈一つ〉の【統一（単位）】として現前する。その統一は、〈一つ〉である。〈一つ〉が【原理】であり、〈多〉がすべての〈一つ〉であるかぎり、そうなのである。	般に離散性という形式のうちにあるというその限りで、連続性は多くの一の統一として現存している。この統一は、一が原理である限り、換言すれば多くのものがすべて〔それぞれ〕一である限り、一である。
	3		22 23	Diese Einheit unterscheidet sich insofern zugleich von den Vielen als solchen.	同時に、そのかぎりでは、そうした統一は、〈多〉そのものとは区別される。	その限りこの統一は同時に多くのものそのものから区別されている。
	4		23 24 25	Die Continuität ist aber auch das *Unbestimmte* der Vielheit überhaupt, und insofern ist das Eins als Grenze an ihr.	しかし、また、連続は、一般に多態が【無規定であること】でもある。そして、そのかぎり、〈一つ〉は、この多態のもとにある限界としてある。	だが連続性は数多性一般という無規定的なものでもあり、そしてその限りでは連続性のもとでの限界としてある。
	5		25 26 27 28 29	Die Vie- len als discrete Viele oder als Eins sind unbegrenzbar, denn als Fürsichseyende enthalten sie die Grenze als ein aufgehobenes Moment, und sind die absolute Negativi- tät gegen dieselbe.	分離した〈多〉としての〈多〉、いいかえれば〈一つ〉としての〈多〉は、限界づけられないものである。というのも、この〈多〉は、それだけで独立した存在であるから、その限界を廃棄されたモメントとして含んでいるからであり、そこで限界に対する絶対的な否定態だからである。	離散的な多くのもの・換言すればもろもろの一としての多くのものは、限界づけることができない。というのは、〔それぞれが一である〕多くのものは、向自的に存在するものであるから揚棄された契機として限界を含んでおり、こうして限界に対する絶対的否定態であるからである。
	6		29 30 31	Eine Menge als solche ist keine Gren- ze an den Vielen selbst, es ist eine ihnen völlig äusserliche Bestimmung.	多数そのものは、〈多〉それ自身のもとで限界となっていない。それは、〈多〉にとって完全に外面的な規定である。	集合そのものは多くのものそれ自身のもとでのいかなる限界でもない、それは多くのものにとってまったく外的な規定である。
	7		31 32 33 34	Die Grenze ist an ihnen nur als den Vie- len, die darin sich gleich sind, daß sie Viele sind; diese ihre Continuität ist das unbestimmte Seyn, an dem die Negation als Grenze ist.	限界は、たんに〈多〉であるもろもろの〈一つ〉のもとにある。この〈多〉は、もろもろの〈一つ〉が〈多〉であるという点で、同等である。こうした〈一つ〉の連続は、無規定な存在であり、無規定な存在のものでは、否定が限界としてある。	限界は、多くのもののもとにあるが、その多くのものとはもっぱら、多くのものであるというまさにこの点で相互に等しいところの多くのものである。多くのもののこの連続性は無規定的な存在であり、この存在のもとでは否定が限界としてある。
	8	159	34 1 2 3 4	Zugleich aber ist sie nicht Grenze an der Continuität, insofern sie als die Einheit ist, denn diese macht eben das von dem Vielen, dem Discre- ten und damit dem Negativen überhaupt unterschiedene Moment aus.	しかし、同時に、この否定は、統一（単位）としてあるかぎり、連続のもとにある限界ではない。というのも、この統一は、まさに、〈多〉、〈分離〉それゆえ一般に否定的なものとは区別されるモメントだからである。	しかし同時に限界は、それが統一としてある限りでは、連続性のもとでの限界ではない。というのは、統一はまさに多くのものから・離散的なものから・それとともにまた否定的なもの一般から区別された契機をなしているからである。
453	1		5 6	Das *Quantum erscheint* daher *in seinem An-sich-bestimmtseyn* nicht als continuirliche son-	したがって、数量への移行でも示されたように、【数量】は、【その〈それ自体で規定され	したがって定量はそれの本来的に規定された存在においては、定量への移行〔に

			7 8	dern als *discrete Größe*, wie sich auch im Ueber- gange zu demselben gezeigt hat.	ているあり方〉では】、連続した〈大きさ〉として【現象する】のではなく、【分離した大きさ】として【現象する】のである。	ついて述べたそ〕の際にも示しておいたように、連続的な大きさとしてではなく、離散的な大きさとして現われる。
	2		8 9 10 11 12	Das Quantum als be- grenzte continuirliche Größe, ist eine unbestimmte Grenze; denn sie enthält nicht das continuirliche als vieles Eins, somit auch nicht in der Form des An-sich-selbst-be- stimmtseyns.	数量は、限界づけられた連続した〈大きさ〉としては、無規定な限界である。というのも、限界づけられた連続した〈大きさ〉は、多くの〈一つ〉としての連続した〈一つ〉を含んでいないからである。したがって、また、数量は、限界づけられた連続した〈大きさ〉としては、〈それ自体それ自身で規定されているあり方〉の形式では存在しない。	限界づけられた連続的な大きさとしての定量とは無規定的な限界である。というのは、連続的な大きさは、連続的なものを多くの一として含んでおらず、それゆえにまた自己本来的に規定された存在という形式において含んでいるのでもないからである。
	3		12 13 14 15	-- Die *Momente* der Continuität und Discretion aber, indem sie in dem Quantum als ihrer Einheit sind, sind selbst das Ansichbestimmtseyn, das ihre Einheit ausmacht.	――しかし、連続と分離の【モメント】は、それらの統一としての数量のうちにあるのだから、それ自身、それらの統一（単位）をかたちづくる〈それ自体で規定されているあり方〉である。	――しかし連続性と離散性という両契機は、それらの統一としての定量のうちにあるのだから、それら自身が本来的に規定された存在であり、この本来的に規定された存在がそれら両者の統一をなしている。
	4		15 16	Die Continuität ist als Einheit, als auch als vieles Eins.	連続は、統一としてあるとともに、多くの〈一つ〉としてもある。	連続性は統一としてあり、また多くの一としてもある。
	5		16 17 18 19	Die Discretion oder der Unter- schied ist ferner darin nicht nur der unbestimmte der Vielheit überhaupt, sondern als der Bestimmte der Ein- heit gegen die Vielheit.	さらに、この点で、分離である区別は、一般に多態の無規定な区別であるばかりでなく、むしろ、多態に対する統一がもつ規定された区別としてある。	離散性ないしは区別はさらに、この点で数多性一般という無規定的な区別であるだけでなく、数多性に対する統一という規定された区別としてもある。
	6		19 20 21	Diß ist aber zugleich nicht ein bloß qualitativer Unterschied, denn die Vielen sind Eins, sie haben dieselbe Einheit.	しかし、このことは、同時に、たんなる質的な区別ではない。というのも、〈多〉は、〈一つ〉であり、こうした統一を持つからである。	だがこの区別は同時にたんに質的な区別ではない。というのは、多くのものは〔そのそれぞれが〕一であり、それらは同一の単位をもっているからである。
	7		21 22 23 24 25 26	-- Ferner ist das Viele nicht unterschieden von der Grenze oder dem begrenzenden Eins; es macht die Continuität sowohl als die Discre- tion des umschliessenden Eins selbst aus, denn es ist selbst continuirlich und discret; das Quantum oder die Grenze der Quantität als solche ist selbst Quantität.	――さらに、〈多〉は、限界である限界づける〈一つ〉と区別されない。〈多〉は、包含する〈一つ〉それ自身の連続をなすとともに分離もなしている。というのも、〈多〉は、それ自身、連続的であり、また分離しているからである。そこで、数量という、量の限界そのものは、それ自身が量である。	――さらに多は限界または限界づける一から区別されていない。多は囲いこむ一そのものの連続性ならびに離散性をなしている。というのは、多はそれ自身が連続的かつ離散的であるからである。定量または量の限界そのものがそれ自身量なのである。
454	1		27 28	Das Quantum auf diese Weise an sich selbst be- stimmt, ist die *Zahl*.	数量は、このようなあり方でそれ自体それ自身で規定されるので、【数】である。	このように自己本来的に規定された定量は数である。
	2		28	Sie ist das Quantum in seiner	数は、規定態のかたちをした数量である。なぜ	数はその規定態における定量である。と

			29 30 31 32 33	Bestimmtheit, weil sie nur ein Verhalten des Eins, das absolut an-sich-bestimmten zu sich selbst ist, das in seinem Unterschiede von sich, also dem Bestimmtseyn als durch anderes sich selbst gleich bleibt, oder worin dieser Unterschied eben so unmittelbar ein aufgehobener ist.	なら、数は、〈一つ〉がみずから自身に関わることにすぎないし、絶対的に〈それ自体で規定された一つ〉にすぎないからである[1]。絶対的に〈それ自体で規定された一つ〉は、みずからがみずからと区別し、そうして〈規定されたあり方〉となるさいに、他の〈一つ〉を介しながらみずから自身と同等のままにとどまる。いいかえれば、こうした絶対的に〈それ自体で規定された一つ〉においては、その区別が、同時に直接的に、廃棄された区別なのである。	いうのは数は一のふるまい〔一がさまざまな態度をとること〕にすぎず、絶対的に本来的に規定されて自己自身になっているものであるからである。そしてこの絶対的に本来的に規定されているものは、それ自身からの区別のなかで・したがって他者によって規定されたものとしての規定された存在において、自己自身に等しくありつづけるのであり、換言すればこの絶対的に本来的に規定されているものにおいては上述の区別はまたまさに直接に揚棄された区別である。
455	1	160	1 2	Die Zahl hat *erstens* das *Eins* als *Princip*, insofern ist es das continuirliche Eins, oder die Einheit.	数は、【第一に】、〈【一つ】〉を【原理】としてもっている。そのかぎり、〈一つ〉は、連続した〈一つ〉であり、すなわち統一（単位）である。	数は、第一に、一を原理としてもっている、そしてその限り一は連続的な一・あるいは単位である。
	2		3 4 5	*Ferner* ist diese Einheit von sich repellirt; sie ist als *Viele Eins*; aber diese Vielen machen selbst nur das Eins aus, insofern es das begrenzende ist.	【さらに】、この統一は、みずから反発する。この統一は、【多くの〈一つ〉】としてある。しかし、この〈多〉は、それ自身、〈一つ〉をなすにすぎない。この場合の〈一つ〉は、限界づける〈一つ〉ということである。	この単位はさらに自己から反撥される。この単位は多くの一としてある。だがこれらの多くの一は、この一が限界づける一である限りでのみ、それ自身一をつくりなす。
	3		5 6 7 8 9 10 11 12	Die Vielen der Zahl machen das Quantum aus; die Vielheit ist Moment *des begrenzenden Eins*; die Vielen, die durch die Grenze abgesondert und umschlossen werden, *sind nicht ausserhalb ihrer Grenze*; diese ist das Eins selbst, und diß Eins ist die Quantität und das Discrete oder das Continuirliche selbst, welches die Vielen sind.	数の〈多〉が数量をかたちづくる。多態は、【限界づける〈一つ〉の】モメントである。〈多〉は、限界によって切り離され包含されるが、この〈多〉は、【みずからの限界の外部にあるのではない】。この限界は、〈一つ〉そのものである。そして、この〈一つ〉が量であり、それ自身、分離したものであったり、連続したものであったりして、〈多〉は、このいずれかである。	数〔として〕の多くのものは定量をつくりなす。数多性は限界づける一の契機であり、限界によって分けへだてられかつ囲みこまれている多くのものはそれらの限界の外にあるのではない。限界は一そのものであり、そしてこの一は量であり、また多くのものがそれであるところの離散的なものまたは連続的なものそのものである。
	4		12 13	Diese Vielen machen die *Anzahl* der Zahl aus.	こうした〈多〉は、数の【数値】をなしている。	これらの多くのものが数の集合数をつくりなす。
	5		13 14 15	Einestheils unterscheidet sie sich von dem Eins als der Einheit, aber zugleich ist sie nur eine Anzahl solcher Einheiten.	一方では、数値は、統一（単位）としての〈一つ〉とは区別されるが、同時に、こうしたもろもろの統一（単位）の数値にすぎない。	一面では集合数は単位としての一から自己を区別しているが、しかし同時にそれはそのような諸単位の集合数にすぎない。

[1]第 2 版を参考にすると、「絶対的に〈それ自体で規定された一つ〉がみずから自身に関わること」と訳しうる。

	6		15 16 17 18 19	Anderntheils ist sie nicht eine Vielheit *gegen* das umschliessende, begrenzende Eins; sondern die Anzahl macht selbst diese Begrenzung aus, welche ein bestimmtes Quantum ist; die Vielen machen *eine* Zahl, *Ein* Zwey, Ein Zehen, Ein Hundert u. s. f. aus.	他方では、数値は、包括し限界づける〈一つ〉に【対する】多態ではない。数値は、それ自身、こうした限界づけをなしており、この限界づけは、規定された（特定の）数量である。〈多〉は、【一つの】数をかたちづくる。すなわち、〈【一つの】〉二、〈一つの〉十、〈一つ〉の百などをかたちづくる。	他面では集合数は囲みこみ・限界づける一に対立する数多性ではない。そうではなくて、集合数はそれ自身が、規定された定量であるところのこの限界づけをつくりなしている。多くのものがひとつの数を、〔例えば〕二、十、百等々をつくりなすのである。
456	1		20 21	Die Zahl hat also zu ihren Momenten die *Einheit* und die *Anzahl*, und ist selbst die Einheit derselben.	したがって、数は、統一（単位）と数値をみずからのモメントとしており、それ自身これらの統一である。	したがって数は単位と集合数とをその契機としており、それ自身がこれら両者の統一である。
	2		22 23	Jene macht das Moment der Continuität, diß der Diß- cretion aus, wie sie, in dem Quantum, als Zahl sind.	統一は、連続のモメントをなし、数値は、分離のモメントをなす。これは、双方が数量において数としてあるあり方である。	単位は連続性の契機をなし、集合数は離散性の契機をなす、これが〔連続性と離散性との〕両者が定量において数としてあるあり方である。
	3		24 25 26 27	Die Einheit unterscheidet sich von der Anzahl, und zu- gleich sind sie vereinigt in der Zahl selbst als dem *ne-* *gativen Eins*, im Zehen, im Hundert, welches eben so sehr selbst Einheit als diese Anzahl ist.	統一は、数値とは区別され、同時に、これらは【否定的な〈一つ〉】としての数そのもの、すなわち、〈十〉、〈百〉で一体化する。これは、同時にそれ自身、こうした数値としての統一なのである。	単位は集合数から区別されており、かつ同時に両者は、〔例えば〕十とか百とかいうような数そのもののなかに否定的な一として合一されている。そして十とか百とかはそれ自身が単位でもあれば集合数でもある。
457	1		28 29	Das begrenzende Eins ist das Bestimmtseyn gegen anderes, die Unterscheidung der Zahl von andern.	限界づける〈一つ〉は、〈他の規定されたあり方〉に対する〈規定されたあり方〉であり、〈他の数〉からその〈数〉を区別することである。	限界づける一は他者に対して規定された存在であり、他の数からのこの数の弁別である。
	2		29 30 31 32 33 34	Aber diese Unterscheidung wird nicht qualitative Bestimmtheit, sondern bleibt quantitativ, fällt nur in die vergleichende *äusserliche* Reflexion; die Zahl selbst bleibt in sich zu- rückgekehrt, und gleichgültig gegen das Andere, oder ist nicht darauf bezogen.	しかし、このように区別することは、質的な規定態とはならず、量的なままであり、ただ比較する【外面的な】折れ返りにはいるにすぎない。〈数〉そのものは、みずからの内に還帰したままであり、〈他のもの〉に対して無関心のままであって、いいかえれば、〈他のもの〉に関係づけられていない。	だがこの弁別は質的な規定態ではなく、量的なままであり、比較する外的反省にのみ属する。数そのものは自己へと還帰し、他者に対して無関心的なままである、換言すれば、他者へと関係づけられていないのである。
458	1	161	1 2 3 4	Diese Gleichgültigkeit der Zahl gegen anderes ist die wesentliche Bestimmung derselben; sie macht ihr *An-sich-bestimmtseyn*, aber zugleich *ihre eigene* *Aeusserlichkeit* aus.	〈他のもの〉に対する〈数〉のこうした無関心態は、〈数〉の本質的な規定である。こうした無関心態が、【数の〈それ自体で規定されたあり方〉】をなしているが、同時に【数の独自の外面態】をなしている。	他者に対する数のこの無関心性は数の本質的規定である。この無関心性は数の本来的に規定された存在を・だが同時に数の固有の外面性をなしている。
	2		4	-- Was das erste betrift, so	――最初の点にかかわっていうと、量そのもの	――前者に関していえば、量そのものは限

			5 6 7	ist die Quantität selbst nicht gleichgültig gegen die Grenze; sie hat an ihr selbst die Grenze in ihrem Momente der Discretion.	は、限界に対して無関心ではない。量は、みずから自身のもとに、分離のモメントのかたちで限界を持っている。	界に対して無関心的ではない、〔すなわち〕量は限界を離散性というその契機のうちにそれ自身のもとに〔顕在的に〕もっている。
	3		7 8 9	Aber diese Grenze ist nicht die Beziehung auf anderes als anderes, sondern gleichgültig dagegen.	しかし、この限界は、他のものとしての他のものに関係することではなく、他のものに対して無関心である。	だがこの限界は他者としての他者への関係ではなく、これに対して無関心的である。
	4		9 10 11 12 13	Diese Gleichgültigkeit besteht darin, daß die Negation der Quantität, das Eins, unendlich auf sich bezogen ist, und das Andersseyn als aufgehobenes an ihm selbst hat; ferner hat sich auch die eigne Repulsion des fürsichseyenden Eins aufgehoben.	こうした無関心態の実質は、次の点にある。すなわち、量の否定である〈一つ〉は、みずからに無限に関係しており、〈他であること〉を廃棄されたものとしてみずから自身に具えるという点である。さらに、そうした無関心態は、それだけで独立して存在する〈一つ〉の固有の反発をも廃棄したのである。	この無関心性は、量の否定・すなわち一が自己へと無限に関係づけられており、また他在を揚棄されたものとしてそれ自身のもとに〔顕在的に〕もっている、ということをその木質としている。さらに向自存在的な一の固有の反撥もまた揚棄されてしまっている。
	5		13 14 15 16 17	Das Eins der Zahl ist insofern *numerisches* Eins; ein absolut an und für sich bestimmtes, das zugleich die Form der Unmittelbarkeit hat, und dem daher die Beziehung auf anderes völlig äusserlich ist.	〈数〉の〈一つ〉は、そのかぎり、【数字で示す】〈一つ〉である。これは、それ自体でもそれだけで独立しても絶対的に規定された〈一つ〉である。それ自体でもそれだけで独立しても絶対的に規定された〈一つ〉は、同時に、直接態の形式を持っており、それゆえに、こうした〈一つ〉にとっては、他の〈一つ〉への関係が完全に外面的になる。	その限りで数の一は数的一である。〔数的一は〕絶対的に完全に規定しつくされたもの〔であり〕、これは同時に直接態という形式をもっている、したがってこれにとっては他者への関係は完全に外的である。
	6		17 18 19 20	Als Eins, das Zahl ist, hat es ferner die *Bestimmtheit*, insofern sie *Beziehung auf anderes ist*, in ihm selbst, in seinem *Unterschiede der Einheit und der Anzahl*.	さらに、〈数〉の〈一つ〉は、〈数〉である〈一つ〉なのだから、〈数〉が【他のものへの関係である】かぎり、みずから自身のなかに【規定態】をもっている。すなわち、〈一つ〉が【統一（単位）と数値とを区別すること】に【規定態】を持っている。	数であるところの一として、一はさらに、規定態が他者への関係であるその限りで、それ自身のうちに・単位と集合数とのそれの区別のうちに規定態をもっている。
	7		20 21 22 23	Dieser Unterschied ist aber zugleich quantitativ, indem die Anzahl Vielheit *der Einheiten*, und die Vielheit das discrete Moment der Zahl selbst, oder ihr *Eins* ist.	しかし、こうした区別は、同時に量的である。それは、数値が、もろもろの統一という多態であり、この多態が、〈数〉それ自身の分離の契機であったり、〈数〉の〈【一つ】〉であったりするからである。	だがこの区別は同時に量的である。というのは、集合数は諸単位の数多性であり、また数多性は数そのものの離散的な契機・換言すれぼ数の一であるから。
459	1		24 25 26	Aber eben so sehr ist die Quantität selbst die aufgehobene Bestimmtheit, der äusserlich gewordene Unterschied.	しかし、同じ程度に、量それ自身は、廃棄された規定態であり、外面的になった区別である。	だがまさに同様に、量そのものは揚棄された規定態であり、外的になった区別である。
	2		26	Das Eins ist *Princip* der Zahl, als numeri-	〈一つ〉は、〈数〉の【原理】であり、数字で	一は、数的一として、すなわち、それにと

			27 28	sches Eins, das heißt, als gleichgültiges, dem die Beziehung auf anderes völlig äusserlich ist.	示す〈一つ〉として、すなわち〈無関心な一つ〉としてある。この〈無関心な一つ〉にとっては、〈他の一つ〉との関係が完全に外面的になっている。	っては他者への関係がまったく外的であるところの無関心的なものとして、数の原理である。
	3		28 29 30	Die Zahl aber ist die Beziehung dieses Eins; sie ist die Einheit, die als viele Eins in sich zurückkehrt.	しかし、〈数〉は、こうした〈一つ〉の関係である。この〈数〉は、統一（単位）であって、この統一は、多くの〈一つ〉としてみずからの内に還帰したのである。	しかし数はこの一の関係である。数は、多くの一として自己へと還帰している統一である。
	4		30 31 32	Aber weil es numerische Eins sind, so ist ihnen diese Beziehung und Rückkehr in sich eben so sehr ein gleichgültiges.	だが、この〈一つ〉が数字で示す〈一つ〉であるので、多くの〈一つ〉にとっては、この関係と、みずからの内への還帰とが、同じ程度に、無関心なものである。	けれども〔多くの一という場合の〕この一は数的な一であるから、それらの一にとってはこの関係と自己への還帰はまさに同じく無関心的なものである。
	5	162	32 33 34 1	Die Grenze des Quantums besteht in der Anzahl, in der sich äusserlichen Vielheit, welche zu ihrem Princip oder Einheit 316201 das gleichgültige Eins hat.	数量の限界の実質は、数値にある。すなわち、みずからに外面的な多態にある。みずからに外面的な多態は、無関心な〈一つ〉をみずからの原理とし、みずからの統一としているのである。	定量の限界は集合数に・すなわち自己にとって外的な数多性にあり、そしてこの数多性はそれの原理ないしは統一として無関心的な一をもっている。
	6		1 2 3 4 5	Die Zahl ist auf diese Weise das Ansichbestimmtseyn, aber das Ansichbestimmtseyn der Aeusserlichkeit, oder ein Ansichbestimmtseyn, das eben so unmittelbar völlige Aeusserlichkeit des Bestimmtseyns ist.	〈数〉は、こうしたあり方で、〈それ自体で規定されているあり方〉であるが、外面態という〈それ自体で規定されているあり方〉である。いいかえれば、〈規定されたあり方〉の同じくらい直接的に完全な外面態である〈それ自体で規定されているあり方〉である。	数はこのような仕方で本来的に規定された存在であるが、しかし外面性の本来的に規定された存在、換言すれば、またまさに直接に・規定された存在の完全な外面性であるところの本来的に規定された存在である。
	7		5	Die Quantität ist die Unendlichkeit in sich.	量は、みずからの内で無限態である。	量は自己における無限性である。
	8		6 7 8	Die Zahl ist näher diese Unendlichkeit als innerhalb ihrer selbst an sich bestimmt, und als eben so absolutes Aufgehobenseyn oder Aeusserlichkeit des Bestimmtseyns.	〈数〉は、より詳しくいえば、みずから自身の内部においてそれ自体で規定されたものとしてのそうした無限態である。そして、同じくらい絶対的に〈廃棄されているあり方〉としての、いいかえれば〈規定されているあり方〉の外面態としてのそうした無限態である。	数は、よりくわしくいえば、それ自身の内部で本来的に規定されたものとしての・また規定された存在のまたまさに絶対的な揚棄された存在ないしは外面性としての、この無限性である。

平成 27 年度跡見学園女子大学特別研究助成費による成果の一部（Ver.1, 2018/8/10. Copyright© KAMIYAMA, Nobuhiro）